

アマプラやNetflixの会員が急増しているいまこそ「コイツ」の登場！

アマゾンプライムやNetflixの会員が急増しているいまこそ「コイツ」の登場！

れにともなう在宅勤務や、在宅学習、そしてイェナカの充実ニーズが重なり、アマプラ、Netflix会員は急増。それとともに大画面テレビもバンバン売れているという。

ある。そう、コンテンツや画面の美しさと比して、音声が高品質なのだ。テレビの薄型・大画面化は音声にとつて不幸の始まりでしかなかった。ベゼルすらも極限まで削がれた薄型大画面テレビデザインにはもはや、スピーカーの居場所はない。いくらサラウンドだ、ハイレゾだといつても、その美音・凄音を届けるだけの能力が備えられていないのだ。

イェナカ充実気運高まる昨今の

ヘッドフォンでサラウンドの臨場感！

イェナカ充実気運の高まりに従って、楽しむ人が急増しているうちシアター。そんな潮流に最適な独創技術を搭載したAV製品がビクターから登場した。その名は「ワイヤレスシアターシステムXP-EXT1」。いまヘッドフォンサラウンドが新しい！

文/モノ・マガジン編集部

次なるウオッシュは音、というのは当然の帰結だ。ベースピーカーを置いてみるのもいい。ちよつと奮発してAVアンプとサラウンドスピーカーを設置するのもいい。しかしよりコンパクトに、時間や音量を気にせず楽しめるヘッドフォンで、しかもサウンドはスピーカーで聞いているかのようなライブ感もあり……そんな美味いところ取りを実現しちゃったのがビクターの新作「XP-EXT1」である。

XP-EXT1の最大の特長は、ヘッドフォンなのにスピーカーで聞いているかのような音場を再現できることに他ならない。ちよつと詳しい話になるが、ヘッドフォ



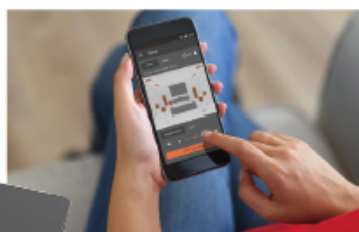
エクソフィールドの仕組みと構成

(上)スピーカーとヘッドフォン、エクソフィールドによる音場定位イメージイラスト。(下)XP-EXT1のプロセッサーユニットをハブとしHDMIによりTV、BDプレーヤーを接続する。スマホとはBT接続、ヘッドフォンとはデジタルワイヤレス伝送により音が途切れにくい仕組みだ。



ビクター ワイヤレスシアターシステム XP-EXT1

ヘッドフォンでもスピーカーで聞いているかのような音声を、最大4人までの個人特性に合わせて再現。Dolby AtmosやDTS:Xなどのマルチチャンネル再生に対応。また2ch、5.1chなどのコンテンツも7.1.4chにアップミックスが可能なのも嬉しいポイント。本体とプロセッサーのセット。価格オープン(実勢11万円前後)。



新開発のスマホアプリ「EXO FIELD THEATER」の操作画面。最大4人までの個人特性データの記録が可能で、装着する個人に最適な立体音場と定位を再現する。



1/3

monoの大捜査線

ンリスニングの場合、音の定位は左右の耳の中央、だから頭内となる。対してスピーカーの場合は身体から離れた位置に発音体が存在するから頭外定位となる。今回JVCケンウッドが開発した頭外定位音場処理技術「エクソフィールド」をもちいると、ヘッドフォンリスニングでありながらスピーカーリスニングの音場と定位を実現できる。つまり「ヘッドフォンなのにスピーカーで聴いているみたい！」ナノダ。専用のスマホアプリ「EXOFFIELD THEATER」を用いると最大4名までの個人特性データが記録できるから、それぞれに最適な臨場感で楽しませてくれる。また映像が2chステレオでも、5・1chサラウンドでも、7・1・4chへアップミックスしてくれるから、聴きなれたステレオライブでも、もっと臨場感豊かに楽しめるってワケ。もちろん音はビクターの本領発揮。40mmドライバーユニットによるサウンドはパワフル&ワイドレンジ！大きく厚いイヤーパードは長時間リスニングも快適だ！サラウンドチャンネルはどんどん増して、リアルさの追求は留まるどころを知らない。しかし家中でその恩恵に与かるにはそれ相応の投資が必要だ。小さく、手頃に、簡単に！XP-EEXT1の登場は、ヘッドフォンサラウンドという新潮流の第一波なのだ。

